

## 明けましておめでとうございます。

はがきの年賀状からレター形式の服部新聞のお年賀のお手紙に変えて5年目になります。皆様お元気に日常生活を過ごしていらっしゃるでしょうか。どうでしょうか。小生は何とか頑張って毎日、毎日を過ごしています。

周囲の環境、外部環境の激変によって右往左往していますが、我々西日本の人間は東日本大震災の直接の被害は被っていません。確かに震災の余波等で荷動きが止まったりしましたが、この位の小さな変動は震災地の方から見れば、大した問題ではないのですが、昨年末に何社かの大阪の老舗材木屋が店を閉じました。今年も廃業と倒産が多く発生し、我々材木業界に暗い影を落す1年になるのではないかと考えています。劇的に世界が凄いスピードで移り変わっているのは、新聞を見れば理解出来るし、東南アジアに旅行で出掛け、途上国の経済発展を自分の目で確かめたら日本の現状を危惧しない方は多分いないでしょう。しかし我々大部分の日本人はそんなに簡単に変わるものでないと思いますが、現代の日本人は変わらないと将来が無いとしたなら、劇的な変化をするだけの決断が出来ると思います。

ところで我々材木屋は木を販売していますが、木を販売しなくなって初めて本当の材木屋になるのではないかと最近思っています。それは材(木に才能が付いて材木です。)と言う字の意味を考える必要があるのではと思うからです。

### 材 (木に才能が付いているが、才能って幾つ有るのでしょうか)

私は思いました。多分3つは最低有ると思います。1つ目は加工しやすい才能。2つ目は温かみが有る才能。3つ目は色が鮮やかな才能。

我々自分達の事を材木屋と呼んでいますが、本当に材木屋なのでしょうか。私は少し違うと思います。我々は本当に木の才能を生かし切っていないのではと思います。もし本当に木の3つの才能を見極め使いこなしていれば、世間から、大事にされ現在の状況と180度反対の世の中の方から引っ張りだこにされる業界に我々はなっていたでしょう。特に大震災が発生し新しい住まい作りの要請が近い将来有るにも拘わらず廃業・倒産が発生するのはその証拠では無いかと考えています。

我々の本当の名前は木屋(きーや)なのです。材木屋ではないのです。材木屋なら材木の才能を生かしきっているはずですよ。材木の材の字の意味から見るとそうなると思います。

もし本当に木の3つの才能を生かしきる事が出来たなら材木屋と言う職業名を名乗って良いと思いますが、出来ていないなら、例えば電話帳検索はきーや、にしてはと思います。

私は今年2012年平成24年を木の3つの才能を最大限生かす方法を手探りながらも探そうと思っています。その為には、相反する事を念頭に入れながら仕事をしないわけには参りません。それが木を販売するのではなく、木の持っている3つの才能を美味しく消費者の方々に理解し易い形で表現することではないかと思っています。それが多分私の考える無垢の良さを伝える仕事だと思っています。無垢って素晴らしい物だと思っていますが、どうエンドユーザーの消費者の方々に理解していただくのかを深く考えたいと思います。それが(きーや)から材木屋になることではないかと思っています。

## 服部商店・服部雅章60歳までの目標

平成24年以降の服部商店と言うか53歳の服部雅章の目標は『物売りからの卒業』です。この目標はかなり難しい作業だと思いますが、この目標の極一部でも実現できれば世の中に貢献出来る業者に生まれ変われるのではと思います。物売りが悪いと言っているのでは有りません。具体的に言えば、少し前の服部新聞に書きましたが、東北地方の材木屋の跡取りで、職場が完全に流されて好きな木の仕事が出来なくなった方がいれば是非紹介して欲しいと言う試みをしました。しかし皆様方からのアナウンスは全くゼロでした。今でもそう言う若人がいれば是非、世の中に本当に役に立つ木に携わる真の材木屋に仕込んで見せたいと思います。この考えも物売りからの卒業と言う所からの発想です。又違う角度から言うと『亡き父親から引き継いできたカツラの服部からの卒業』です。小生とすれば本当は、有形な形ではない方が理想形なのですが、少し違う言葉で形が有るとすれば多分『無垢の服部商店』を目指す事ではなかろうかと言う事です。（\*決してカツラ材を辞める事では有りません。世間から亡き父親が亡くなって今年で9年ですが今でもカツラの服部と呼ばれています。それを無垢の服部商店と呼ばれる会社に仕立て上げる事を意味しています。）

無垢の服部と称していますが、無垢って何ですか？と言う事を深く突き詰める必要が有ると思います。この場合、私の思う無垢のイメージは人間界が絶対に変更出来ない木の特徴を最大限生かす作業だと思います。

具体的に言えば小生が日常している仕事内容(木に優しい製材方法を取っている)と言う事も本当なのかを検証する作業も必要になってくると思っています。

木に優しい製材方法と言うより、客観的に見て、そして言葉に替えれば最大限歩留まりを上げる方法と言い直した方が良いのかも知れないと思いました。木の才能を本当に引き出している製材方法なら、自然の恵みである木材その物の本質を生かしたことに繋がり、自然界から小生を見たとき、材木屋として名乗っても構わないと呼んで頂けるものではないかと思っています。

何故こう言う思いが過ぎったのか解りませんが、11月末に1週間、眼の病で入院していました。その時人間の道具とも呼べる口とか手とか眼とか全てに神戸に有る世界のコンピューターの京が数えられない個数が付いているのだと感じました。人間の優れたテクノロジーはこれからも無限に発展していくでしょう。しかし人間で言えば、衰えた臓器に手を加え長生きする事は、可能だと思いますが、其れは自然界から見れば大した技術ではないのです。

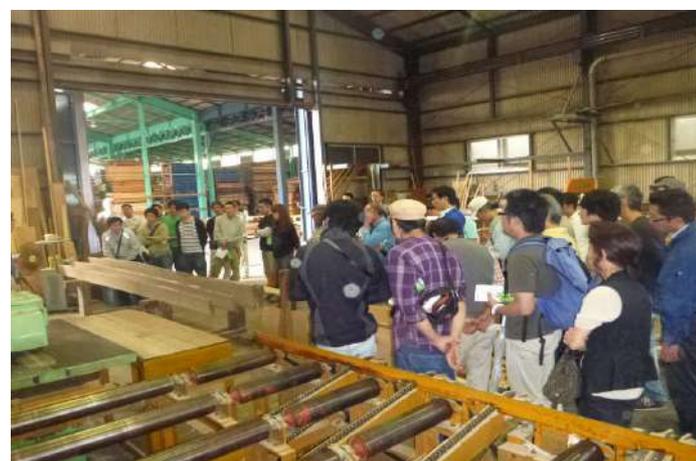
確かに『物売りからの卒業』と『無垢の服部商店』と並べると『無垢の服部商店』を目指す方が良いように一見見えるのですが、其れは木材の本質を究めた事になるかは、かなりの疑問を抱かずにはいられません。しかし『物売りからの卒業』を少しでも出来たなら本当に消費者から愛される真の材木屋に生まれ変われるのではないかと思います。

## 第11回勉強会と第五回木材展示即売会の御案内

2014年2月18日(土曜日)午前10時から約1時間15分位の日程で、国産のサクラ材とアメリカ産のブラックチェリー材の製材を見比べてと言う企画を考え進めています。

11回目して製材の比較を見て頂く事で、先ほども言いましたが、本質の違う物を本当の言葉で表現できない者は、自然の本当の法則(神様が太陽と土と空気等人間の作れない物で地球を作ってくれた)に反しているのです。市場から退出命令が発令され廃業・倒産の憂き目に会おうので有って、自然の正しい法則に乗っ取って仕事をしている方達は、決して自然から見れば正しく評価され愛される存在で有り続けることを理解して欲しいと思います。

下の写真は昨年10月に開催した第10回勉強会の写真です。



サクラと言う名前と呼べる樹種は多くは有りません。今回の企画は原木の製材を見て頂くだけでなく、建築士さんがサクラと図面に書いているマカバ材とはどんな色をしているか、ザツカバ材・メジロカバ材・アサダ材・ブラックチェリー材・アルダー材等のサクラと良く似た樹種と一体どの様に色合いが違うのか、本当の北海道のサクラはどんな色をしているのか、等の事を知っていただく為に6種類のサクラを含めた板を同一に並べ見比べて頂き本当の事を知っていただくと言う企画です。

又雑誌等で使われているカバサクラと言う樹種は存在しないとか、何故マカバ材がサクラと呼ばれるのか、日本人が最も好むサクラ色ってどんな色なのか等、今までにない企画を考えています。

ブラックウォールナット原木の展示も同時に行いたいとも考えています。

今回の企画と今までの企画の違いは、もし購入したいお客様がいたら、その場でお客様の必要なサイズに製材をさせて頂こうと考えています。

又同時開催します第五回展示即売会の商品内容は前回以上の品揃えを致します。当日品揃えに目ぼしい物を数多く展示致しますが、遠方の方が利用し易い方法を考えています。正式なご案内は服部新聞1月号にてもう一度御知らせ致しますので、宜しく御願致します。

## 売ってくれません

エンドユーザーの建築の内装（造作・建具等住い関係全般）・家具関係を含む木に携わっている特に中小零細業者の我々の動きは決してよく有りません。特に大震災以降急激に無垢の建築の内装材の荷動きは良くないと思います。しかし北米産針葉樹のスプルス材に関しては、極端な表現ですが、配給制になっている感があります。又為替メリットが多く有るはずですが、全然為替メリットの還元は行われず、逆に価格を大幅に値上げされています。又大口需要家だけに販売され、我々小口の材木屋は相手にされない現象が起こっています。

この状況は当分改善されないと考えます。今シーズンの米材針葉樹のスプルス原木の市況は完全に日本全国、川上主導『完全な売り手市場』で推移すると思います。又我々材木屋も荷動きが今一つパツとしないので在庫を限りなく少なくしていました。余りに在庫調整をしすぎて最低持っていなければならない量の確保が出来ていないのを、全国の大手スプルス輸入業者に見透かされているのです。

又東日本大震災の復興需要は予算が国会で法案が通過しただけです。街の都市計画も全然進んでいませんが、これから急速に事（都市計画等の作業）が進み、新しい街作り、住い作りが急速に進むと思います。

そうやって初めて日本中が復興需要に満ち溢れ国内経済が一時の閉塞状況を抜け出せるのではと思っています。

又そうする政策を実現させる為に国会で与野党を超えて作ってくれた復興法案だとも思っています。

大手の輸入業者は材木の情報だけで物事

を決して見ていません。大局観の有る目で見ているのだと私は思います。又それ位の有数な頭脳を持った経営者（多分取締役以上小生の感では専務以上の肩書きを持った沈着冷静な方）が会社の中枢部に多くは有りませんが、いらっしゃいます。その方達はこれから今年1年先の供給数量の有る程度の情報と言うか見込みを多分掴んでいるのでしょう。そのデーターから見て大きな儲けを企てているのだと思います。私は輸入業者が大きな儲けを獲得するのは当然だと思っています。それが所得移転の形で税金にて還元され国全体にお金が廻れば縮小してきた日本がよみがえる、第一歩に繋がるのだと思います。

今年以降の米材針葉樹で現在起こっている現象は多分他の樹種にも広がりを見せるだろうと私は予想しています。過去の服部新聞にこれから先々材料の確保で困る事が多々起こる可能性が有りますよと皆様に真実をお伝えしてきましたが、それが本当に現実味を帯びるだけでなく、現実には起こってきているのです。

その一方海外から安い完成品はどんどん輸入されるでしょう。国内の空洞化は避けられない時代に突入したと思わざるを得ませんが、海外に全面的にシフト出来る物とそうでない物が有るのだと思います。

ところで服部商店は今シーズンは、無理せず、他の樹種に力を入れたいと思いますし、それだけの在庫は持っているのですお客様にご不便を掛ける事は無いと思います。↑上の写真は第二船（10月入港）を積んできた船です。もう1船アラスカ材の入荷が有ると聞いていますので引き合いを頂いていますお客様に何とか商品を提供するよう努力しますので安心していてください。

